074839-001-0

特43-573

劇場の脚色

華本　安治郎／編

M11

CEK-0187

新狂言五部續讀　角の芝居の部

當世劇場の賑色　全壹冊

六の二

取

寫の九代目と東蔵る　ころ弥さ乃れての　じろせ川

其へ蔭奥手内くる

ゆきさ　寫繪切讀狀

切

愛想美しき番附の　番組へ

ゆむ拾きの　繪本に依し

舷海の番鑑　冊

あかしのたてわけせいろうめぐり

（大序）寛文年中伊達れ分家伊達兵部悴市之正お本家相續させんと謀臣原田甲斐（八百藏）と心を合せ綱宗（右團治）に酒を勧め且白川頼母（鰹十郎）と手討になさしめ夫を落度として大守綱宗を隠居させ纔か五才れ龜千代（伊三郎）を家督となし分家田村隠岐守（猿藏）伊達兵部（延五郎）後見なし猶も忠臣松前鉄之助（鰹十郎）龜千代の乳人淺岡（右團治）を遠ざけんと奇妙院とかさふひ淺岡が一子千代松（家久藏）母主君の家を繼せんと龜千代調伏の偽願書を拵へ終に松前鉄之助と罪を取て落し吟味中慎み言付る場よて幕

（二段目）松前鉄之助（鰹十郎）身母覺へ無き罪を蒙り我家に慎み居る内も幼君龜千代君（伊三郎）の身れ上を氣遣ふ所へ門番人嘉兵衛れ女房お豐（家女）今宵怪しき風体の者分家田村隠岐守の使として門内へ入り込者こそ油斷なふずと知す元より忠義お凝さる鉄之助取る物もとり敢ず其者を伺ひんと雨夜よ乘ト奥御殿の廣庭へ立越すなり爰よ荒木和助（鰹太郎）兵部が差圖よ隨ひ、龜千代を殺害なさんと奥御殿を伺ふを鉄之助（鰹十郎）おとよ（家女）が知らせおより龜千代（伊三郎）を恙なく守護ん終お和助（鰹太郎）を生捕る場にて幕

（三段目）原田甲斐（八百藏）の猶も龜千代を毒害なさんと門番嘉兵衛が妹お栁（團之助）と膳番頭鹽澤丹三郎（鬼丸）とい言母なる事と篤知つて態と我家へ招き不義者と母して手討お爲べきを情を見せて夫婦となし大場道益（友三）よ調合させさる毒藥をあさへて龜千代を毒殺せよと言付る丹三郎（鬼丸）是非無く一味お加担るより○館おてい鉄之助（鰹十郎）が

（大序）寛文年中伊達れ分家伊達兵部悴市之正お本家相續させんと謀臣原田甲斐（八百藏）と心を合せ綱宗（右團治）に酒を勧め且白川頼母（鰹十郎）と手討になさしめ夫を落度として大守綱宗を隠居させ綱か五才れ龜千代（伊三郎）を家督とな し分家田村隠岐守（猿藏）伊達兵部（延五郎）後見なし猶も忠臣松前鉄之助（鰹十郎）龜千代の乳人浅岡（右團治）を遠ざけんと奇妙院とかゝひ浅岡が一子千代松（家久藏）お主君の家を槍せんと龜千代（朝伏の仇頗書を拵へ終に松前鉄之助と罪を取て落し吟味中慎み言付る場よて幕二段目）松前鉄之助（鰹十郎）身母覺へ無き罪を蒙り我家に慎み居る内も幼君龜千代君（伊三郎）の身れ上を氣遣ふ所へ門番人嘉兵衛れ女房お豊（家女）今宵怪しき風体の者分家田村隠岐守の使として門内へ入り込者こそ油断なふずと知す元より忠義お凝さる鉄之助取る物もとり敢ず其者を伺ひんと雨夜お乗ト奥御殿の廣庭へ立越すなり爰お荒木和助（鰹太郎）兵部が差圖お隠ひ龜千代を殺害なさんと奥御殿を伺ふを鉄之助（鰹十郎）おとよ（家女）が知らせおより龜千代（伊三郎）を恙なく守護お終お和助（鰹太郎）を生捕る場にて幕（三段目）原田甲斐（八百藏）ハ猶も龜千代を毒害なさんと門番嘉兵衛が妹お栁（團之助）と膳番頭鹽澤丹三郎（鬼丸）とい言母なる事と篤知つて態と我家へ招き不義者と母して手討お爲べきを情を見せて夫婦となし大場道益（友三）お調合させさる毒藥をあさへて龜千代を毒殺せよと言付る丹三郎（鬼丸）是非無く一味お加ひるより○館おてい鉄之助（鰹十郎）が

生捕し荒木和助(鰹太郎)と引出し伊達兵部(延五郎)田村隠岐守(猿藏)立會の上吟味なを所へ原田甲斐(八百藏)來り和助を生捕し鉄之助ゐ働ふきと賞美し表を忠ゐ見せて鉄之助ゲ咎を免し腹心の神並三左工門(右國治)ゐ態と和助を賣させ頼八を詮義なをより○三左工門欺ひて和助と毒殺なを是全く悪事の洩んを所へ悪人の斗らひ成る事と悟り和助(鰹太郎)今端の際ゑ三左工門(右國治)ゐ善人ゐ立返り呉よと異見となす是にて三左工門忽ち善心ゐ立返り兵部ゐ屋敷へ忍び込を連判狀と奪ひ取り片倉小十郎(八百藏)方へ訴へ出んと思へども追手のかゝらん事と厭ひ兵部ゲ手元金五百兩を奪ひ取盗賊と見せて逐電なを段ゐて幕

〔四段目〕神並三左工門(右國治)一端悪事ゑかさん爲したる

身なれば譬へ返り忠なをとも刑罪のがをじと覺悟を極め白石への行ゐけ親の元ゐ暇乞ゑ立寄百兩乃金を置て立出る時ゐ財布と取忘をて出行爰へ鹽澤丹三郎(鬼丸)原田甲斐ゐ差圖ゐ依て神並ゐ親五平次(八百藏)ゐ許へ三左工門の詮義ゐ來り手元金五百兩奪ひ國遠なゝさる盗賊なをば搦取て連行うんといふ是ゑ依て五平次(八百藏)我子三左工門ゲ賊を働ふきゝ事を知るより三左工門ゲ忘をし財布を取ゑ戻るを幸ひゐをと析檻なす三左工門(右國治)餘義なく返り忠の一都始終と物語るより鹽澤丹三郎(鬼丸)委細を聞三左工門の心腹と感ゑ該塲と見のゲす段ゐて幕

〔五段目〕神並三左工門(右國治)兵部なの追手を氣遣ひ水戸海道より白石へ立越んと完戸宿へかゝゲ折柄水戸光國

公(八百藏)三左工門ゞ異なる出立を審り其臣朝比奈彌太郎(駒之助)として擒捕らし嚴敷責問ゞ是非なく三左工門(右團治)伊達家の騒動と返り忠の一部始終をあかせ光國公(八百藏)三左工門ゞ眞心を感ト白石なる片倉小十郎(二役)(八百藏)方へ三左工門を送り屆ゞる段ゞて幕

〔六ッ目〕淺岡の局(右團治)夫と白川頼母(鰕十郎)ゞ忠義と謀繼片時も龜千代君の傍とはなさず主家の惡人を見出さんと晝夜心と附る折柄國元より片倉小十郎(八百藏)三左工門ゞ持參なーゞる連判狀を持來り主家の惡人を告げ伴ひ來りー淺岡ゞ一子千代松(家久藏)ゞ親子ゞ對面さそを淺岡(右團治)我子ゞ傍ゞありてい忠義の妨なりと五年以來逢ぬ我子と難面もてなー國へ追歸す淺岡忠節の段ゞて幕

〔七ッ目〕伊達家ハ老臣伊達安藝(鰕十郎)主家の惡人を幕府へ訴へ國家を納めんと江戸表へ出府なー隱居伊達綱宗(右團治)ゞ對面なさんと來をざも甲斐が附置謀臣是とゆるさず安藝(鰕十郎)ハ是非なく立歸るより綱宗是を聞傳へ茶道珍賀(駒之助)ゞ內意を示し伊達安藝へ身の放埒後悔の書面と送る安藝途中ゞて是と披見なー袖ゲ浦の別邸へとつて返そより島田玄番(猿藏)綱宗を毒殺なさんと斗るゞ綱宗の愛妾お高の方(多賀之丞)戀ゞ事寄せ玄番ゞ密談を見顯ー綱宗ゞの爲ゞ玄番を手討ゞ成すより伊達安藝(鰕十郎)綱宗(右團治)ゞ對面なし家の騒動と物語る。綱宗始めて伯父兵部原田甲斐ゞ惡人なる事と知り先非後悔なす段ゞて幕

〔大詰〕伊達家の老臣安藝(鰕十郎國家を納めんと當時龜

千代ごの後見さる伊達兵部(延五郎)原田甲斐(八百藏)其餘乃者を相手どり二十四ケ條の罪と糺さんと幕府へ訴へる。板倉内膳正(駒之助)のかゝはあて利非明白なる裁斷なりと雖も大老酒井雅樂頭(友三)兵部ゐ内緒あるを以て兎角依估の沙汰のミ多く終ゑ我役邸ゐ於て突合せ對訣を言ひ附利を非ゐ曲て甲斐(八百藏)に勝利と讓ふんとなす所に板倉内膳正(駒之助)出來り安藝(鰹十郎)ゑ同道なゑさる神並三左工門(有國治)を呼び出し甲斐(八百藏)と突合せを言ひ附る是ゑよつて甲斐のがれる所ゐく終ゑ非分ゐ落入り罪ゐ伏そより酒井雅樂頭(友三)竊ゑ甲斐に刀と送る是を以て甲斐(八百藏)安藝(鰹十郎)を殺害なさんと數ケ所の手疵を負ひそれども終ゐ天罰をのがゝを安藝の爲ゐ甲斐殺害さをるより役邸を騷せ

玄科に依て伊達家に重き咎あるべきと忠臣の功しに依て本領つゝがなく安堵なし。惡人不殘刑に所せふを。善人勝を得國家治り愛度昌盛壽く意味にて幕（是ゑ切狂言所作事）

夢相兵衛が發明の器械に御景負の蒸氣ゐ任して航海の爲帆

胡蝶洋行

物一坐罷出相勤め申候

（大切）横濱にて夢想兵衛（右國治）英國龍動に博覽會ある事を聞傳へ見物ながふ商法ゑ航海仕度思へども其身貧ゐして心に任せず暫らくまゝろむ内夢ゑ支那の都へ至る爰ゑ桃艶夫人（國之助）夢想兵衛と懸想なす支那人仲立して鞍ゑ母なさんと云夢想兵衛迷惑なし日本に妻ある事と語れど支那人ゑつのな聞入を不得心なれゞ國法行なひんと言ふ夢想兵衛是に驚き幸ひ飛來りし鳶凧ゑ乘じ支那を逃廻すよ

り印度ゟ至りアダムが峰にて印度の老人パンパア(延五郎)マドロス(友三)夫婦に出逢ひ日本淨瑠璃語りと号して淨瑠璃を語り食と乞ふて又もや鳶凧に相乗り此國を立去り英國ロンドンの都へ至る爰へ支那人の夫婦連モテ、ル(八百蔵)スコブル(團之助)通辨人辨司(駒之助)洋行せし日本のたいこ持と藝妓おきく(多賀之亟)等を連を博覧會より戻り來る此支那人横濱ゟて夢想兵衛を知る人ゆへ遠方で出會しを悦び洋酒をそゝめ博覧會物品の物語りより皆〻藝盡しの手踊りに成り夢想兵衛も是にて重寶ゟりと大ひに悦び奥にて舞をもふ是を元の横濱の道具に替り妻おとふ(多賀之亟)夢想兵衛が寢ぼけさる顔に驚き其子細を問ふ夢想兵衛(右團治)夢攪め始めて我家なる事を知り夢中ゟ洋行せし事を

語る此段惣ドて所作事踊りにて目出度打出し

評判〈

當り狂言劇場の脚色角の芝居の部大尾

明治十一年三月廿三日出版御届
同　年同月　刻成出版

〔定價二錢五厘〕

編輯兼出版人　大坂府平民　華本安治郎
第二大區九小區難波新地二番町八番地

當ル寅年川竹の戎坐にて新狂言
西南夢物語脚色　小本壹冊
棋薫舎出版
涙花草紙之内
此劇場れ脚色と同体裁ゟて看ゟ客にも見ぬ人にも頗便利で面白い本也

此度有志の看客を集ひ久敷中絶之劇場評判記を一好事の翁が編輯致そ存念に御坐候間同志の通客當二の替り狂言俳優の藝評多少不論陸續右番地迄御奇贈被下度奉願候

代　華本敬白

貢

東京新橋出雲町
同虎の門外琴平町
横濱馬車道
名古屋本町二丁目
同本町十一丁目書林
大津丸屋町
西京烏丸通萬年寺
同新京極蛸薬師
同四條通御幸町
神戸北長狹通五丁目
兵庫湊町三丁目

捌

廣島中島本町角
松山湊町二丁目
熊本鹽屋町
長崎勝山町西海新聞
鳥取市場町
堺天神南熊野町
岸和田北町書肆
德嶋中通二丁目
高知本町二丁目
同
須本鍛冶町

所

名讀新聞社
靜霞堂
內田報恩社
同南久寶寺町西
同安堂寺町
同鹽町角
同周防町南
同同所綿甚通店
同八幡筋東
同三ッ寺筋
同日本橋南詰
同同壹丁目（ヨツヤ）
同鹽町三休橋北
同黑金橋北詰
同平野町淀屋橋角
同御靈社前
同新町通壹丁目
同堂嶋中壹丁目

大坂心齋橋通久寶寺町
同心齋橋通本町
同道修町南
同同壹丁目（ヨツヤ）
同同所綿甚通店
同日本橋南詰
同三ッ寺筋
同八幡筋東
同周防町南
同鹽町角
同安堂寺町西

前川源七郎
岡嶋眞七
報知社支局
田中安治郎
富士政七
前田喜兵衛
梅村爲七
進取活版社
玉置清七
森文藏
梅村安兵衛
花木鳴物店
山本與助
野原兵衛
石川和助
松本平兵衛
八百德藏
雲堂

日弘堂支店
金港和七郎
伊藤
岡田源吉
柳川種助
辻肥與平
吉田源太郎
水嶋貫之
似文會社
松村榮吉
北村佐平
本庄治郎
坂井萬吉
栗尾藏
澤駒吉
福本文藏

道頓堀芝居茶屋

張八

大尾湊萬近泉
吉屋十安正

此外何方ぢも本屋芝居茶居ぢも差出有之候

當ル明治十一年四月廿五日餘興

狂言作者

近松八十翁　竹柴壽作

近松時助　奈川忠國

勝諺藏　勝能進

ふり附

丸山村　藤間竹遊

狂言かた

近松八十助　近松英助

奈川遊作　近松橘助

頭取

出來島喜兵衛　瑠璃喜藏

○近世櫻田雪紀聞（○（大序）洛東祇園社地の場）て夢明くと宮女村岡の局當社に參詣し爲と處○爰に常陸國水府の臣下鵜飼幸吉と謂る人主君の内命を請け村岡を便り來て攘夷の免狀と乞ひ受け主君の宿意を遂んと密に事を謀る猶又彦根家あてい兼てより外國と交通をなさんと謀る頃ゆへ長野主膳と歌道修行と偽てこきも竊かに都へ入込み八棟玄番と心と合せて事を爲すより宮女村岡鵜飼が誠忠を感ぜて免狀の一義に心配をなす段にて幕

○二段目）日吉山王別當所の場にて水府の老公碧山（瀧十郎）大老彦根（非伊）掃部（飛鶴）の兩主外國交通の事にて双方議論と成り兎角水戸い攘夷の論と主張そるよ依り彦根でハ甚ぞ該論と悪み水府者てい此身の存念も達ー難くと思ひ信ゝ奸計と巡らー遂ひに水府を國詰の鑽居に言附る道具替ると彦根（飛鶴）歸館の路をじ何者とも知れず乘物目ゞ鉄砲と打込む是にて家來騷動なせども彦根い運よく去て鉄丸を退を無事に歸館なす段にて幕

華本氏藏版

當ル明治十一年四月廿五日餘興

狂言作者

近松八十翁
竹柴壽作
近松時助
奈川忠風
勝諺藏
一勝能進

ふり附

九山
藤間竹村遊

狂言かた

近松八十助
近松英助
奈川邁作
近松橘助
出來島喜兵衛
瑠璃喜藏

頭取

○近世櫻田雪紀聞）○（大序）洛東祇園社地の場あて萬明くと官女村岡の局當社に參詣し爲ち處○爰ゐ常陸國水府の臣下鵜飼幸吉と謂る人主君の内命を請け村岡を便り來て攘夷の免狀と乞ひ受け主君の宿意を遂んと密に事を謀る猶又彦根家あてい兼てより外國と交通をなさんと謀る頃ゆへ長野主膳と歌道修行と偽てこきも竊かに都へ入込み八棟玄番と心と合せて事を爲すより官女村岡鵜飼が誠忠を感ぜて免狀の一義ゐ心配をなす段にて幕

○二段目）日吉山王別當所の場あて水府の老公碧山（瀧十郎）大老彦根（非伊）掃部（飛鶴）の兩主外國交通の事ゐて双方議論と成り兎角水戸い攘夷の論と主張せる　ゑ依り彦根でハ甚ざ該論と悪み水府有てい此身の存念も達ー難くと思ひ信ゞ奸計と巡らー遂ひゐ水府を國詰の蟄居に言附る道具替ると彦根（飛鶴）歸舘の路をじ何者とも知れず乘物目がけ鉄砲と打込む是にて家來騒動なせども彦根い運よく去て鉄丸を退を無事ゐ歸館なす段にて幕

華本氏藏版

○同切）品川鈴ゲ森刑場にて彦根候の斗らひよりの水府の家臣鵜飼吉右工門を獄門にのける爰へ浪士有村治左工門（璃寛）鵜飼とハ重縁の者ゆへ首級を取得て葬らせんと夜中よ水る所ゑ元メの庄五郎（嘉七）藝者の小三（璃笑）と連れ川崎の大師參り戻りの姿にて通行りかゝる瓦ひにだんまりの爭ひ有る處總て花方の貫目役者ゞの出揃にて幕

○三段目）常陸の國長岡村の場ゐて水府の壯士等主君景山公の宿意達せざるを殘念ゐ思ひ該所に（大達者俳優）集會なし楠公至忠の銘文を殘ーて彌〳〵脫國なす

○虚爰に（同じ）水藩にて蓮田市五郎（橘三郎）ハ一味の内ゑ加ゑらんと本國を脫走なさんと出行く所へ家老山野邊主水（澤村訥升）登城の歸り道にて謀らぞも出會

○餘所なぶら暇乞をなーて別る〳〵とゐろ○兩人心意氣の脚色宜敷く大當りにて幕

○四ッ目）水戸海道松戸宿の場ゐて有村治左工門（璃寛）ハ兼て志願の宿意を達せんと假よ樺の重吉と變名なー馬士と姿を替へ道中と働ゑ居る爰へ山野邊主水（訥升）江戸表ゑ出府の途中有村（璃寛）の姿と見て通常の馬士に非ざるを悟り供廻りの荷物を持せ千住宿の本陣まで連れ來り○坐敷ゐて馬士重吉（璃寛）の心中を誠す夫より重吉全く有村治左工門と本名を明し我存念と物語る此所ハ（樂村屋）（紀の國屋）の兩達役者の當場にて幕

（五段目）蓮田市左工門（嘉七）浪宅の場へ同蓮田市五郎（橘三郎）ハ同志の壯士と供ゐ主君の仇と報ぜんと種々艱難と爲し居る處ゑ親市左工門（嘉七）ゞの重病を聞傳へ我浪宅ゑ立歸り余所なぶら親の身の上を女房おせつ（正朝）妹お君（橘久三郎）の兩婦ゐ賴み置き我存念を達せんと云ふ義心より再び出國を爲さんと慷慨の鐵心親子の別れ妻ゐ貞操老父の恩愛仁義忠孝全き段よて幕

○六段目）ハ品川新宿山崎屋の場なり○爰ゐ水戸浪士の内よて黒澤忠三郎（訥升）ハ金五郎と變名ーて料理人となり姿と替て該樓ゐ居る此處ゑ彦根の藩中長野伴五郎（團次）明友を伴ひ藝者小三（璃笑）と連れ此樓へ酒宴よ來りー處藝者男ゑら

いの小三(璃笑)が事より忠三郎(訥升)と爭論ゐ及ふ其延へ元メの庄五郎(嘉七)來りて中に立入り此場と扱ひ双方無難ゐ立別をる此の庄五郎(嘉七)ハ以前黒澤(訥升)の家來す玄故彦根候明日ハ彌生の式日に付乘物ゐて登城をなすと云ふ事を密かゐ忠三郎へ告る是より同盟の壯士に也右ハ一條を密かに巡報す是に依つて一味の輩(親玉株の總出)此家へ來ッて會合なー彌〳〵明日ハ日頃の本意を達せんと密談ゐ仗ふ段ゐて男女〳〵い幕

○七ッ目)外櫻田雪降りの場て脱走の水戸浪士有村治左エ門(璃寛)黒澤忠三郎(訥升)齊藤監物(嘉七)蓮田市五郎(橘三郎)佐野竹の助(璃笑)大關和七郎(飛鶴)森五六郎(璃鳳)木和田土佐(瀧十郎)共外義士の銘々赤合羽を着中間小者の姿と形り雪中に理伏なして大老彦根(井伊)掃部(飛鶴)の登城を待受々供廻りの中江切入り大ハ廻りと成り雪中ゐ於て日頃の本望を達する場總て憤撃矢戰の現況を見る脚色よて幕

○大結)老中役邸糺問の場にて水府の浪士本意と達ー自訴をる中ゐも蓮田市五郎(橘三郎)池田矣の役宅え呼出さを浪士一同櫻田ゐての亂妨と糺問される市五郎ハ我存意を一々演舌ゐ及ぶ池田播磨(瀧十郎)其誠忠を感じ情を以て浪士へ切腹を言附る段にて櫻田騒動の首尾全く謀り愛國慷慨義士の名譽ゝ末世に殘す劇場の脚色ハ實に近世の史略上鳴采の聲價を發そべー(東西是より二番目狂言始り)

中狂言

都鳥廓白浪

みやこどりながれのあらなみ

上中下 綾き 三滿久

○上の卷)東都隅田川堤の場にて惣の惣太(橘三郎)ハ古主吉田家の寶器紛失より家沒落となり松若丸(訥舛)ハ衛知をず物太ハ主家の寶を詮義せんと種々心を碎く難難をる内はうらずも有所と知りされども買取るべき金子のおぐなく心

華本氏藏版

勞なす折柄獵鳥目の病ひを煩ふゆ不自由勝ひと雖キミス〳〵知れた寶物を何と其儘捨ても置れぬと金子調達の事にて夜中ゐ諸所を徘徊なす所ゐ吉田の梅若丸い（源平）母ゑ別れ道母迷ひ隅田堤え來ゐ、るを惣の惣太（橘三郎）い眼病も〻へ古主の公達とい知らず金子を所持なし居るを附込ま金の無心より去て梅若丸を威を梅若丸い盗賊なりと聲と立る惣太（橘三郎）い聲立さぬと彼の口を押へんとして誤て息を止め遣に梅若丸い絶死をあす此所ゐ雷寂の丑市（嘉七）按广の形ゑにて來こゝり（紀の國屋）（伊丹屋）（松鶴屋）の三達者ゞだんまゑ場にて當幕

○中の巻）惣太住家の場ゐて松若丸（訥舛）い世を忍ぶ身なれゞ女の姿と成て居る。惣の惣太（橘三郎）も彼の女い松若なる事を知て我家ゐ連れ歸る○爰ゑ男達葛飾重右工門（璃寛）と稱る者ゐゑ是も以前吉田家の由緒ある者ゆへ此女を引取らんと來る惣太い重右工門（璃寛）の内心を知らずして兩人爭論とある所ゐ悪者按广の丑市（嘉七）來ゑ吉田の寶ゑ都鳥の印を惣太ゐ賣る此印大の偽物なれども惣太

（橘三郎）眼病にて偽を知ゑず剩さへ丑市 嘉七い惣太ゑ難題と言掛け女姿の松若（訥舛）を連て立歸る惣太い無念口惜しく思へ其金の調達なゑざる故種〳〵心を勞す段ゐて幕

○下の巻）雪寂の丑市宅居の場ゐて丑市（嘉七）松若（訥舛）を連れ歸ゑ誠の女！思ひ詰無体なる事をなすゑ依ゑ松若 訥舛 怒つて悪逆の所業を憎ま一刀母殺害ゐすより斗らずも正眞の都鳥の印松若の手ゑ入る此處ゐ惣太（橘三郎）來り松若と主從の名乘と爲ー眼病とい言なゞゑ古主の公達梅若丸を隅田堤にて絶死させし事を物語ゑ其言譯に切服なーく果る○爰ゐ松若を召捕んと捕方大勢來る是よゑ大立廻りゐて多人數の捕方を皆悉く退け○都鳥の寶印と持て再び吉田の家名を興さんと勇立て本國ゐ立歸る段ゐて勸善懲悪の始末を演ぶる處をべて紀の國屋

ゼ十八番人氣澤村の當り狂言で有り幕 チョン〳〵

是より切 狂言達親玉の勢揃彌所作事の始り サヨ——

〔西京〕島原の曲輪に傾城の女紅遊

〔浪花〕船場の豪家に初幟の朱鐘馗

〔東京〕兩國の繁榮に粟餅の曲綱搗

三都名所寫眞粉

惣一坐罷出

相勤め申し

○西京島原の廓花やかに女紅場の道具にて○けんせい〔訥舛〕新造（璃笑）禿兩人（秀二郎）と（澤村源平）舞子（璃寛）皆々第一等の衣裝ゐて美麗い事此上ふし女子手藝の學びによろへ萬事上品で華美な景事

〔浪花〕船場逸豪家の道具物て流行を穿た趣向ゐ人氣たん午の初幟と○采の大鐘馗ごの〔璃寛〕幟りの畫拔頗く手ゑにーて男の赤鬼（橘三郎）女の青鬼（澤村訥舛）都合二人ごの看客を笑ゑを滑稽の景事

○東京兩國橋の粟餅屋好意氣な道具まゑりにて粟餅の曲搗餅屋（訥舛）（璃寛）〔橘三郎〕でつち〔璃笑〕船頭〔飛鶴〕子守り〔正朝〕俳偕師〔嘉七〕此外一坐物出ゐて長唄

滑稽璃の掛合專ら流行を穿さ開化猫の脚色の臨梅よーー芳さんでも跳足を逃る作者の妙案俳優の上出來賑このゐ面白く看客を悅ばーて愛度打出し評判ジャーー〳〵

當り狂言劇場の脚色中の芝居二の替りれ部　大尾

明治十一年四月廿三日出版御届
同　年同月　刻成出版

（定價二錢五厘）

編輯兼出版人　大阪府平民　華本安治郎

第二大區九小區難波新地二番町八番地

○角の芝居ちぐみ　二の替りの部（二錢五厘）三の替りの部（近日出版）　あれも矢張當り狂言劇場の脚色の内で看た客にも見ぬ人よも便利ゐある頗る面白い本なり

〔同役者評判記〕　樗連集評立本（三錢五厘）全壹冊　角の芝居二の替り役者の藝評と集め三府の見功者ごの補助ゑたる古今無類新趣向の評判記也

櫓連集評

俳優評判記

故人八文字屋の評判記ニハ好く俳優の藝評とあげ式亭翁ゲ客者評判記よ看客の服を早く穿りしい適れ功者の上出來なるべし這回發行する新奇趣向の該評判記い未だ芝居興行中に江湖見功者の藝評を加得て初編壹册を賣出し又看客諸彦の皮肉と高評と待ち猶幕内俳優連よりの藝例の思惑と小言を聞き譬へば市川唯かと其俳者の投書と載せ彼我應答の雜評を交双方の討論强て貳編に記載そる新發明の評判記に御座候間好事の通客御補助の五投評陸續御贈被下度と版元お代りて下手な告條ありねさす櫓街の

真猫散人ホ、敬て白

此外全國中何方の本屋繪草紙屋にも御坐候

賣捌所大阪本町岡島○道修町報知社○御靈前桔梗屋○堂嶋靜雲堂○心齋橋通綿喜○富士政○秋市○本爲○田中○日本橋南本安○同横根花木屋○鹽町山本與○黑金橋亦穗新○天神橋南歌久○日前中忠○道頓堀芝居前○湊屋○尾張屋○近安平野町石和○新町西田ヤチ德○スチーション福田店○千同大吉○兵忠○河さと○高砂○西つる○柴龜○泉正○東京假名讀社○名古屋報恩社○西京大田○權○同竹屋町宮城○同四條通大谷○堺天神北佐○横濱守屋正藏○神戸日弘堂店○兵庫湊町金港○多門通清水瀧○同元町弘讀社○姫路俵町伊○藤店○岡山下町岡源○廣島中島柳川○山口宮川○同阿部○馬關龜屋半七○博多中嶋藤井○熊本鹽○屋町水嶋○長崎似文會社○廣島中町吉田○松山○肥同玉井○金比羅沼田店○德嶋坂井萬吉○高○知栗尾同澤本○和歌山集成社○伏見京町大西○名古屋本町栗田○岸和田本田廛○岐阜欽風本舍○甲府常盤町内藤○靜岡本町青木○大津澤宗二

版元同價　大阪心齋橋筋貳丁目　櫓連藝評集所　進取活版社
同南地中筋琴平横町　華本文昌堂
大取次所　心齋橋八幡筋東江入　芝居番附版元　玉置清七

華本氏藏版